

# アスベスト教室 30校中1校に

## 公立学校調査

調査は文部省が五月から六月にかけ、公立学校四万三百校と国立大学九十六校など全国公立学校を対象に実施した。

それによると、公立小学校七百一校（全体の二・九%）、中学校一百二十二校（三・一%）、高校二百七十三校（六・五%）、特殊教育諸学校三十一校（三・六%）の計一千三百三十七校（三・三%）でアスベストを使っていた。

内訳は小、中、高校の普通教室四千四百八十三室（全体の〇・七%）、特別教室一千三百七十四室（〇・八%）。また、体育館三百三十九棟（特

殊養護諸学校を含む）、寄宿舎三百十四棟（同）でも使われていた。

地域別で使用が多いのは東京、福岡、愛知の三都県で、逆にゼロだったのは島根、徳島の二県。

国立学校では六十一大学（付属病院や付属学校を含む）、高専三千六校、共同利用機関二施設でそれぞれ使われていた。使用面積は施設全體の一・六五%だった。

アスベストは耐熱性、吸音性にすぐれた建築材として、三十年代から使用が規制された五十年まで、学校の普通教室、音楽室などの特別教室

# 3年内に全面改修 文部省

公立学校の二・一%に一校が発がん性物質のアスベスト（石綿）を吹き付けた教室を持つことが、九日、文部省が全国の国公立学校を行った「吹き付けアスベスト使用状況調査」でわかった。校舎の老朽化とともに空気中に浮遊する危険性が指摘されており、文部省は三年以内に全面改修する。

これが、九日、文部省によるとしている。全面改修にかかる費用は約二百億円。

や体育館などに幅広く使用されていた。校舎の老朽化でアスベストが落と、空気中に浮遊し問題になっている。

文部省もアスベストの撤去に乗り出し、六十三年度から校舎を改修する際、地

方自治体に費用の三分の一を補助する「大規模改修費補助」の適用範囲を、これ

までの①工事費が二千万円以上で、経過年数を問

上②建築後十五年以上を経過などから、「工事費が四百万円以上で、経過年数を問

わない」に改正。現行では石綿を使った施設の三分の一しか適用できないが、この措置

で、ほぼすべての施設が補助